

憲法事例分析の技法



中央大学准教授
柴田憲司
SHIBATA Kenji



立命館大学准教授
坂田隆介
SAKATA Ryusuke



岡山大学准教授
堀口悟郎
HORIGUCHI Goro



同志社大学教授
御幸聖樹
MIYUKI Masaki

本連載では、冒頭に事例問題を挙げ、これを解説する中で、判例集や教科書類に登場する判例・学説の知識が事例の解決に際しどのように現れるのかを示していく。こうした具体論と抽象論との往復を通じ、知識を体系的な理解へと繋げるための一素材を提供できればと願っている。

特に本連載が重視したのは、判例を立論の中心に据えた場合の見通しを、まず示すことである。もちろん学説も、判例読解の補助線として、また判例における更地の部分や不明確な部分を歩む際の批判的再構成の素材として、適宜取り扱う。何より判例を手掛かりにした立論の

具体的なイメージを、時に混同されがちな判例と学説との異同を意識しつつ学んでいただければと思う。なお、この構想との関係で、学説上の見解の対立への言及や文献引用などは網羅的ではない部分もある。ご了解願いたい。

また、連載の全体構想や各回の内容・構成等については、執筆者4名で意見交換を行い問題意識の共有に努めているが、文責は執筆者個人にある。扱う事例によって解説の構成・体裁が変わることもある。その多様性の理由(唯一万能の「型」はなく、事の性質に対応する必要があること)を感得していただくことも本連載の一目的である。(柴田憲司)

本連載で扱う予定のテーマ例

・プライバシー権

・平等権

・思想・良心の自由

・信教の自由

・政教分離

・表現の自由

・検閲・事前抑制

・政治活動の自由

・集会の自由

・職業の自由

・財産権

・学問の自由

・参政権

・未成年者の人権

・団体と構成員

・法律と条例

・司法権の範囲と限界

etc...